

# 岩手農大同窓会会報

第24号

平成29年  
3月3日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢14 TEL 0197-43-2211



## 酉年、嬉しい年か政変の年か

岩手県立農業大学校同窓会

会長 及川 誠

早春の候、同窓会員の皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。本校同窓会は、県の農業機関の再編により、各同窓会が統合してできた大きな同窓会であり、会員相互の親睦と母校の発展に寄与する事を目的に、活動を展開しているところであります。

今年は酉年であります。干支でいうと丁(ひのと)酉(とり)となります。古代中国では「丁」は成長期の安定、「酉」は収穫の利を得る嬉しい年になります。しかしながら、そう単純でないのが干支の怖いところであります。

過去の酉年の歴史を見ると、酉年は政変の年のような気がします。前回の酉年(2005年)は小泉内閣の郵政民営化をめぐる解散、前々回(1993年)には細川政権の連立内閣誕生など、政治的には大きな変革がありました。

また、最近心配される災害でみると、江戸市街のほとんどを焼き尽くした明暦3年(1657年)の明暦大火、安永6年(1777年)の三原山の大噴火、戦後の大地震では、愛知県の三河地震(1945年)、北海道奥尻島を壊滅した北海道南西沖地震(1993年)、そしてマグニチュード8.1の昭和三陸地震など、

酉年は災害も心配されます。

そして、年明けて酉年、1月20日トランプ氏が米国大統領に就任しました。早速、公約の環太平洋経済連携協定(TPP)から「永久に離脱する」とした大統領令に署名しました。

日本の農業政策は数年前から、このTPPを想定して農業構造改革が展開されてきておりますが、TPPの旗振り役の米国が離脱したことによる、日本農業への影響は計り知れないものがあります。

そして、米国第一主義と保護貿易主義が徹底されれば、世界経済を揺るがす事態になるかも知れません。今年はおランダ総選挙、フランス大統領選と総選挙、ドイツ総選挙など相次いで行われます。ポピュリズム(大衆迎合主義)が世界中に広がる中、世界中が変革の年になるのでは……。日本ではTPPに備えて「農業競争力強化プログラム」や「農林水産物輸出インフラ整備プログラム」「農林水産業・地域の活力創造プラン」など、着々と予算化され進行しているのだが……。

このように、農業情勢は先行き不透明ですが、将来も農業はなくならないと思われまますので、今後とも、生産基盤をさらに強化することが求められます。





## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校  
校長 下村 功

同窓会員の皆様におかれては、御健勝で、御活躍のことと思います。また、常日頃から本校の教育活動に様々な御協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

今冬の農大キャンパスでは、年が明けてから雪が降り積もり六原らしい雪景色の中、2年生57名と研究科生2名の学生は、3月8日の卒業式に向けて、最後の卒論執筆に精力的に取り組んでいます。1年生も来年度の卒業研究に向けた計画作成が佳境に入ってきたようです。

さて今年度の学生達の活動を振り返って見ますと先輩諸兄同様に、1年生は農家派遣実習に、2年生は海外農業研修に取り組み、その度に一回りも二回りも大きく成長してきました。また、大震災後の沿岸被災地支援の継続に加え、今年度は、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開会式にもボランティアとして参加し、裏方として大会成功に貢献するなど、地域貢献活動にも取り組みました。課外活動では、技能五輪フラワー装飾部門で銅賞と取組賞を受賞、いわて純情りんごコンテストでは若者の部1等賞を受賞するなど、日頃の学習の成果を發揮しました。そして恒例の農大祭では、会場をこれまでの芝生広場から食堂と新体育館前に変え、学生達の生産物販売や学習紹介、ステージイベントなどを実施し、多くの来場者に好評を得ました。

今春卒業予定の59名の進路についても、年末

までに9割以上が確定し、自家就農や農業法人への雇用就農、あるいは農業団体や農業関連企業への就職で50名が地域農業の担い手やサポーターとして巣立つこととなりました。ほかの就職等でも、多くの学生が地域に戻り、農大での学習を生かすことができる道に進みます。学校としては、学生たちが地域農業や地域活性化の担い手としての人生を歩んでくれることは大きな喜びであります。

一方、昨今の農業では、グローバル化が一層進展する中で、マーケットインの視点での農業経営や米生産に代表されるように農業者の主体的な判断が求められる時代となっており、本校教育においても、幅広い見識と的確な判断力を持ちながら、新たな発想と工夫で地域農業をけん引できる人材の育成に努めていく所存ではありますが、2年間では不十分と思います。

彼らは、社会での実践の中で多くの課題に挑み、先輩諸兄と交流しながら更に育っていくものと思いますので、地域で御活躍の同窓会員の皆様には、これから地域社会に飛び込んでいく後輩を温かく迎え、地域の担い手として育つよう御指導をいただきたいと思ひます。

おしまいに、同窓会員各位のますますの御多幸をお祈りするとともに、多くの先輩諸兄が学ばれた六原の地で、農業を志して勉学に励む学生たちと岩手農大の教育活動にさらなる御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

— 新たな旅立ちにあたり —

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りする学生からの寄稿



### ▶ 大切な仲間との2年間

農産経営科2年 渋谷 光

入学してからあつという間の2年間でした。主に稲作について実習を中心に学びましたが、一人では大変な作業が多く、仲間と協力して作業することの大切さを学ぶことができました。また、卒業研究や資格取得、就職活動など大変なこともありましたが、仲間と励まし合いながら頑張ることができました。卒業後は、JAいわて平泉に就職します。農業大学校で学んだことを活かして一生懸命頑張りたいと思ひます。



### ▶ 岩手を元気にします！

農産経営科2年 佐藤 太気

私は農産経営科に所属し、多くのことを勉強することができました。

私が農業大学校に入学した理由は高校時代に稲作に興味を持ち、もっと深く勉強したいと思ったからです。学校生活や寮生活は、個性的な人たちがばかりで毎日楽しい時間を過ごすことができました。卒業後はJA新いわてに就職します。農大で学んだことを生かし、私の地元の農業の活性化に貢献していきたいと思ひます。



▶ **新たな旅立ち**

野菜経営科2年 中平 知宏

私の実家は、遠野市で約10品目の野菜を栽培している兼業農家です。農業大学校には実家を継ぎ、遠野市の農業を担っていくための知識と技術を身に付けるため入学しました。卒業後は2年間岩手町でまた一から農業を学んでいきます。その後実家に戻り、規模拡大を図りながら有機栽培を行うのが私の目標です。消費者の食卓へ安心・安全な農産物をお届けできるように生産者になれるよう努力していきます。



▶ **新たな旅立ち**

野菜経営科2年 中村 妙子

私は農業大学校卒業後、JA岩手ふるさとへ就職します。就職後は農家の方に頼られる農協職員を目指します。目標を達成するには、今の状態ではまだまだ勉強不足なので、知識を身につけていくとともに、コミュニケーションの始まりである挨拶を大切にしていきたいです。JAで地域と一体となって働いていきたいと思っていますので、精一杯頑張ります。



▶ **今までとこれから**

果樹経営科2年 佐藤 樹

私は陸前高田市出身の佐藤樹です。農業大学校では多くのことを学びました。事例研修では県内外の農家だけでなく北海道の研究センター、近畿大学のほ場の見学など貴重な体験もできました。卒業後はJA岩手ふるさとへの就職が決まっています。農業に関してはまだまだ分からないことが多いです。就職しても日々勉強、先輩方の背中を追いかけ、先輩方のように社会の現場でも輝けるように努力を怠らず頑張りたいです。



▶ **新たな経営にむけて**

果樹経営科2年 君田 竜一

卒業後、出身地の宮城県登米市で就農するため、現在、準備を進めています。実家は水稻農家で米を作ってきました。これからは今までの経営とは異なる果樹という新しい部門で農業を始めます。不安もありますが、農業大学校で学んだことを経営で生かせる農業者になれるよう、日々努力していこうと思います。



▶ **第二の人生に向けて**

花き経営科2年 富樫 収

私は未経験の業種への転職という形になりますが、農業大学校卒業後は秋田県横手市に就農し、一輪菊などの花き栽培に携わる予定です。思い切って飛び込んでみたものの、本当に大丈夫なのかと自分と向き合う日々でした。しかし、先生方や同級生達の皆様と過ごし、自分は間違っていなかったと確信した2年間でした。就農後は地元の花き産業に貢献し、ゆくゆくは岩手県に恩返しができるような農業者になります。



▶ **私のスタートライン**

花き経営科2年 藤野 優香

私は農業大学校卒業後、地元にあるJAいわて平泉で働くことが決まっています。顔見知りも多いため緊張や不安もありますが、どんな時でも「笑顔」を忘れず日々努力していきたいと思っています。社会人としてようやく一歩踏み出したところなので、慣れるまで大変かもしれませんが配属先でも頑張っていきたいです。今後は、農大で得た新たな縁や繋がりを大切に、そこから学んだことを生かしていけたらと思います。また、お互いに助け合い信頼される様な指導員になれるよう頑張ります。



▶ **目標に向けて**

酪農経営科2年 武田 楓

私の実家は稲作と酪農を営む兼業農家です。そのため私は、高校・農業大学校と主に酪農について学んできました。しかしながら、父と話をしていく中で、実家の酪農を和牛繁殖へ転換してはと検討を始めています。そこで、和牛の勉強をしながら技術を身に付けるため、大規模和牛牧場への就職を決めました。初めてのことで不安もありますが、自分の技術アップと共に、牧場のさらなる規模拡大に貢献できるように頑張りたいです。



▶ **私の2年間**

酪農経営科2年 長澤 海吹

最後の学生生活もあと少しと、やっと実感が湧いてきました。これまで沢山の出会いがあって私があると痛感しています。そんなひよっこに色々なことを教えてくれた先生・教授方々には頭が上がりません。本当です。ありがとうございました。卒業後は、岩手中央酪農業協同組合で家畜人工授精師として働きます。いま、卒業を目前にして思うことの一番は、酪農経営科の我がクラスメイト達と一緒に2年間頑張れて良かった！！



## ▶卒業後の目標

肉畜経営科2年 釜石純哉

私の実家では和牛を飼育しており、牛に  
関して学ぶため農業大学校に入学しまし  
た。農大では多くの事を学び、技術を身につけることがで  
きました。卒業後、JA新いわてに就職し、農大で取得し  
た家畜人工授精師の資格を活かしてJA新いわてに貢献し  
たいと思います。また、実家の和牛繁殖経営にも農大で学  
んだことを活用しながら取り組んでいきます。家畜人工授  
精師と和牛繁殖経営の農家として、優秀な和牛の生産に向  
けて努力していきます。



## ▶就農して目指すこと

肉畜経営科2年 山下知夏

私は、農業大学校に入学し肉畜経営科を  
専攻しいろいろなことを学びました。卒業  
後は、実家に戻り就農し経営を継承します。農大で得た知  
識や資格、実習で身に付けたことを活かして経営をしてい  
きたいと思っています。また、今よりも規模拡大をして日  
本の畜産を少しでも支えるような農家になりたいと思い  
ます。農大では2年間という短い期間でしたが、とても  
充実した2年間を過ごすことができました。

## ◆支部便り◆

## 久慈支部

普代村でほうれん草生産に  
取り組んでいる若き岩手農大OB

支部役員 外館則男

久慈管内で平成27年から新規就農し、頑張ってい  
る若い農大OBを紹介します。

紹介する方は、下閉伊郡普代村の中村駿人さん(23)  
で、普代村の中心部から南に1キロメートル位の向野  
場と言う高台の農地開発地でほうれん草を中心とした  
野菜生産に取り組んでいます。訪問した日は年末の寒  
じめほうれん草の出荷作業で忙しい中でしたが、快く  
取材に協力していただきました。

駿人さんは久慈東高校を卒業後、父方の祖父さんが  
以前からほうれん草栽培に取り組んでいるその姿を見  
て、自然に農家の道を目指して農大に進学し、在学中  
もほうれん草栽培を専攻したとのことです。卒業後は  
1年間お祖父さんのところで野菜栽培の現地研修を受  
けた後、平成27年6月から同じ地域内で独立してほ  
うれん草等の野菜生産を開始しました。

経営は、現在、露地が10アール、ビニールハウス

が20アールで、雨除けほうれん草と冬場の寒じめほ  
うれん草を中心に通年出荷しています。農作業は通常、  
本人とお母さん、忙しい時には母方のお祖父さん、お  
祖母さんが手伝い、たまにはサラリーマンをされてい  
るお父さんも手伝うとのことで、家族の力強い支援を  
受け一心に野菜生産に取り組んでいます。

駿人さんは、新規就農してからのほうれん草栽培の  
経験は1年半ぐらいと日は未だ浅いですが「将来的に  
は品質でも、規模でも一番になりたい。そして良いも  
のを作って、それが地域のブランド力に繋がればいい」  
と目を輝かせて話してくれました。



畑が高台にあるため環  
境的には厳しい面もある  
かと思いますが、久慈地  
域の若い農業の担い手と  
して研鑽を重ねて、沿岸  
地域の気象条件を最大限  
生かした、先導的な野菜  
生産農家に育ってほしい  
ものです。

今後の活躍を期待して  
おります。

◀中村駿人さん

## 盛岡支部

滝沢市で食工房“ひだまり”の中心  
となり笑顔で頑張っている農大OG

支部長 竹鼻邦夫

今日は、産直にお土産用のパック入りの大福餅とお  
惣菜を配達し戻ってきた日向（旧姓・菅原）陽子さ  
んを、滝沢市大釜沼袋の食工房“ひだまり”にお伺い  
しお話を聞くことにした。陽子さんは、昭和48年

3月、当時の農業短期大学校を卒業後、当時の滝沢村  
農協に勤務され、同50年、縁あって上司であった  
日向清一さんと結婚。

当時、日向清一さんの家では、水稲2.5haを中心  
にりんご1haの大農家であったが、周囲を見ると、高  
齢化と共に後継者不足の農家が目立ち始めたことか  
ら、将来を見越し思いきって、トラクターは勿論、大  
型コンバインの導入、個人としては素晴らしいカント  
リーエレベーターまで導入し、周囲農家の作業委託を  
受け、今では7haの刈取り、乾燥、糞摺り、搬出ま  
で行うようになった。

一方、陽子さんは滝沢村農協を25年間勤めた後、平成11年に辞められた。農協時代に生活改善担当として勤務していたこともあり、平成13年に旧作業場を改造して食工房“ひだまり”を作り上げ、先ずは大福餅を産直に納品すると、これが評判が良く今日に続いている。

食工房での陽子さんの持ち分は、りんごの花摘み、葉摘み等はするものの、正に食工房の中心となり、産直へパック入り大福餅を、冬場には糯米（もちごめ）1.5kg、注文によっては2kgになることもあるが、毎日、5時に起きて蒸かしを搗いて届けている。産直相手の

商売のため毎日となると大変なことで、勿論主人との2人3脚であることは論を俟たない。しかも、JAとの係わりもあって、葬儀の時のお赤飯（地方にもよるが、俗に言うおふかし等）は待たなしの急な話して、何時何処まで届けてくれと言うことが一番大変と言う。さらに、お惣菜屋さんや仕出し屋さんから頼まれることもあり、断りきれないこともあって大変だと言うが、この道を選んだ以上は、信用第一の仕事だからと、ニコリと笑った姿には、頭が下がる思いがした。

唯一、せっかくの工房での笑顔の写真を撮れなかったことが残念でならない！

## 遠野支部

### 復興への思いを胸に ～大槌町 佐々木和之さん～

支部長 石 関 啓 志

未曾有の東日本大震災から間もなく6年、その鈍音は着実に復興への鈍音となり地域の人達にとっては希望への鈍音となっています。今日は甚大な被害を受けた大槌町で新たに変わろうとする農業の中で孤軍奮闘する、昭和52年3月に浄法寺営農学園を卒業された大槌町出身の佐々木和之さんの活動状況について紹介します。

佐々木さんは浄法寺営農学園では酪農を専攻し卒業後地元へ帰り、地元の畜産公社に勤務しましたが一度退社し農協での仕事を経験されました。しかし、営農学園当時からの畜産関係の仕事に愛着があり、再び地元の畜産公社に戻り、現在は大槌町役場の畜産課に所属し地元の畜産振興に頑張っています。佐々木さんは自宅の経営は規模が小さく、何とかして畜産関係の仕

事で地域貢献ができればと現在の仕事に誇りを持っておりました。仕事の内容は大槌町所有の新山牧場の運営管理が中心であり、放牧地200haと採草地40haが仕事場ですが、春の開牧から秋の閉牧までの約半年間は放牧場へ通い、黒毛和種繁殖牛の健康管理、夏場は採草と忙しい毎日を送っております。放牧頭数は約60頭ですが一頭毎の健康管理、そして発情期の牛の確認等は本当に重要な看視活動です。また、標高600m～800mに位置する新山牧場では、一番草の刈取りが大変重要な時期となり、この時期に品質の良い飼料用ロールが生産できるかが牧場の経営を大きく左右するため、気を抜けないとのこと。こうした仕事ぶりは畜産農家から高く評価されており、特に放牧中の事故が少ない事は、直接農家経営に影響すること



あるため、期待されておりました。現在、佐々木さんは牧場の管理・運営のほかに地域においては、町の農業委員、民生児童委員も担っており地域からの期待も大きいようです。

佐々木和之さん

## 一関支部

### 「一関の現状」 ～一関市 佐藤義剛さん～

支部長 梶 山 隆

一関管内で平成25年度から就農し、水稻栽培に頑張っている佐藤義剛さんの活動状況について、紹介させていただきます。

佐藤さんは農業大学卒業後、地元である一関市中里で就農されました。この地区では、第一遊水地での水稻栽培がメインになっています。第一遊水地は1ha区画のほ場が約700haまとまっている場所で、とても好条件な場所です。しかし、農業の先行き不透明感や高齢化により生産者の数は年々減少しています。このまま減少していくと1人が負担する面積が大きくな

り、最悪、耕作放棄地が出てくることも考えられます。せっかく700haものまとまった面積があるので、これを強みにしていきたいものと佐藤さんは考えます。近年では、「銀河のしずく」や「金色の風」といった地域に適するであろう品種が登場してきています。これらが一関地区の水稻栽培に少しでも良い影響を与えてくれることを期待したいとのこと。

また、佐藤さんは農大在学中に取得した、産業用無人ヘリコプターの資格を活かし、同じ一関地区の卒業生とヘリの組織を作り、地域内外の散布を行っています。現在、この組織は佐藤さんを含め3名しかおらず、今後、さらなる散布面積の拡大と同時に、人員確保を目指します。

「支部内での交流の場が不足していると同時に、私自身まだまだ勉強不足なところがありますが、今後、地域内に限らず多くの地域と交流・情報交換ができれば」との希望を話していただきました。

### 技能五輪全国大会 フラワー装飾部門で銅賞、敢闘賞受賞!

平成28年10月21日(金)から24日(月)まで、山形県で開催された第54回技能五輪のフラワー装飾部門で、各地区大会を勝ち抜いた全国81名の生け花店員や専門学校生と



競い合い、練習の成果もあって、花き経営科2年の伊勢祥紀さんが銅賞、箱山明音さんが敢闘賞に入賞しました。

本校では、花き経営科の専攻科目としてフラワーデザインを必修科目としており、フラワー装飾技能士2級の資格取得にも取り組んでいます。

### いわて純情りんごコンテストで 1等賞を獲得!

全国農業協同組合連合会岩手県本部が主催し、岩手県果樹協会が共催している「2016いわて純情りんごコンテスト」第1部が平成28年10月20日に開催され、果樹経営科1年生が「若者の部」に出品したジョナゴールドが見事、1等賞に輝きました。

実習成果が全県でどう評価されるか、1年生のプロジェクト研究として挑戦し、県内の優良農家と一緒に入賞しました。



## 平成28年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告(抜粋)

平成28年4月21日(木)に農業大学校本館2階会議室で開催された総会で決定した事業計画の概要は次のとおりです。

#### 平成28年度事業計画

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の発行等により組織活動の強化を図ると共に、農業大学校の教育目標の達成を支援する事業を次のとおり実施することとしております。

- (1) 支部活動の促進(支部活動への助成)
- (2) 同窓会会員台帳の整備
- (3) 同窓会報の発行：平成29年3月上旬 1,200部
- (4) 農業大学校卒業生交流への支援
- (5) 農業大学校事業支援

- ア 農大祭の支援：平成28年10月29日(土)～10月30日(日)
- イ 元気の出る農業セミナーへの支援：平成28年11月11日(金)
- ウ 本科2年生の海外農業研修支援  
平成28年8月29日(月)～9月5日(月) アメリカ合衆国カリフォルニア州
- エ オープンキャンパス「緑の学園」事業支援  
第1期：平成28年7月29日(金)、第2期：平成28年8月6日(土)
- (6) 農業大学校同窓会全国連盟及び東日本農業大学校同窓会連

#### 盟への参加

- ア 全国連盟総会 平成28年6月14日(火) 会場：東京都
- イ 東日本連盟総会 平成28年6月9日(木)～10日(金) 会場：岩手県

#### (7) その他

- ア 平成28年度入学式 平成28年4月8日(金)
- イ 平成28年度卒業式 平成29年3月8日(水)

#### 同窓会役員名簿(平成27年度～28年度)

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	及川 誠	北上	理事	槻山 隆	一関
副会長	高崎 覚志	二戸	理事	石関 啓志	遠野
副会長	林田 勲	気仙	理事	菊地 政男	宮古
理事	竹鼻 邦夫	盛岡	理事	岩城 明	久慈
理事	田村 忠	岩手	監事	千葉 欣哉	北上
理事	鎌田 征郎	紫波	監事	及川久仁江	奥州
理事	藤原 勝栄	花巻	事務局長	高橋 栄蔵	奥州
理事	千葉 幸一	奥州			

## 平成29年3月卒業予定者の進路状況について(平成29年1月末現在)

今年度の卒業生は、本科57名、研究科2名ですが、進路の内訳は自家就農8名、農業法人等15名、進学2名、農業団体13名、農業関連企業11名、一般企業5名、その他5名となっております。

主な進路先は、次のとおりです。

- 就 農：盛岡市、八幡平市、葛巻町、軽米町、大館市、大崎市
- 農業法人：水分農産、北日本JA畜産、イオンアグリ創造、JA江刺グリーンファーム、葛巻千葉牧場、アンドファーム、岡外牧場 等。
- 農業団体：JA新しいわて、JAいわて中央、JA岩手ふるさと、JA江刺、JAいわて平泉、岩中酪。
- 農業関連企業：みちのくポタ、ヤンマーアグリジャパン、岩手缶詰、岩手農蚕、櫻井造園土木 等。
- 進 学 先：信州大学、秋田県立大学